

H 26 北海道 公立 国語 問題 ※一般/裁量

国・4・公・北海道・一般01・問・01

1 【一般01】 次の問いに答えなさい。

問1 (1)～(4)の——線部の読みを書きなさい。

- (1) 友人と公園で遊ぶ。
- (2) クラスで討論をする。
- (3) 郵便物を届ける。
- (4) 新しい学説を唱える。

問2 (1)～(4)の——線部を漢字で書きなさい。

- (1) 琴は日本の伝統的ながつきだ。
- (2) 競技場の使用がきよかされる。
- (3) 野菜をこまかく刻む。
- (4) ベランダで朝顔をそだてる。

問3 次の文の□□に当てはまるように、「買う」という動詞を

活用させて書きなさい。

荷物が増えるので、大きなお土産はできるだけ□□ないよう
に心がける。

問4 次は、俳句について説明した文章です。これを読んで、(1)、(2)に

答えなさい。

遠山に日のあたりたる枯野かれのかな 高浜 虚子

俳句は、□□①の定型で、この俳句の「枯野」のように季節
を表す□□②をよみこむことが基本です。

また、余韻や感動を表現する方法として、この俳句の
□□③のように切れ字を用いることがあります。

(1) ①、②に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、ア〜カから選びなさい。

ア ① 五・七・五 ② 掛詞かけことば

イ ① 五・七・五・七・七 ② 掛詞

ウ ① 五・七・五 ② 対句

エ ① 五・七・五・七・七 ② 対句

オ ① 五・七・五 ② 季語

カ ① 五・七・五・七・七 ② 季語

(2) ③に当てはまる語句を、俳句から二字で書き抜きなさい。

問5 次の文の——線部を、謙譲語を使って敬意を高める表現に書きかえなさい。

クラス会への出欠について、先生から返事をもらう。

問6 次の文章を読んで、(1)、(2)に答えなさい。

「あたし、帰る」

麻里子まりこは、そっぽをむいた。

「もうすこしいってみよう」

遠浅とあがいうと、

「ふん」

麻里子は、皮肉っぽく鼻をならした。

遠浅は、蚊にさされた腕をぼりぼりかいた。麻里子だってい

ちごジャムを食べたいっていつてたのに。¹泣きたいのをこら

えて森の中をじっとみつめると、²やぶの向こうが、明るく光

っていた。

背中を向けて歩きだした麻里子に、

「ちよつとまって、あそこ」

遠浅がさげふと、麻里子がしぶしぶりむいた。

遠浅は、やぶを走った。つるに足がひっかかってころびそ

うになったが、いっきに走りぬけた。

その場所だけ日がさしこんでいた。

「いちご!」

遠浅は、みつけた。

(重松彌佐「蛇の森のいちご」による)

- (1) —線1「泣きたいのをこらえて」とありますが、遠浅が泣きたくなった理由を、次のようにまとめるとき、に当てはまる表現を、五字以内で書きなさい。

いちごがまだ見つからないうちに、麻里子が一人で
としているから。

- (2) —線2「やぶの向こうが、明るく光っていた」とありますが、明るく光るやぶの向こうを早く確かめたいと思う遠浅の気持ちだが、最も強く行動に表れている一文の、最初の五字を書きなさい。

国・14・公・北海道・一般02裁量01・問・02

2 【一般02／裁量01】 次の問いに答えなさい。

問1 (1)、(2)の文の□に、それぞれの読みの漢字一字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

- (1) 難題を、一□両□に解決する。
- (2) 心□一□して、科学者を目ざす。

問2 (1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。

- (1) 当日券を購入する際は、誘働に従って列に並んでください。
- (2) 黄色は明るく目だつ色なので、道路標式によく使われます。

問3 次は、ある中学生が、美術館の学芸員にインタビューを行うために準備した質問メモ(A)と、実際のインタビューの場面(B)です。これを読んで、(1)～(3)に答えなさい。

(A) 質問メモ

- ア 最も印象的だった展覧会
- イ 学芸員の主な仕事内容
- ウ 一日当たりの来館者数
- エ 来館者が作品に親しめるような取り組み
- オ 学芸員を志した理由
- カ 学芸員を目指す人へのアドバイス

(B) インタビューの場面

(中学生) 今日は、インタビューを受けてくださいます、ありがとうございます。よろしくお願いします。

(学芸員) こちらこそ、よろしくお願ひします。

(中学生) こちらの美術館の学芸員のみなさんは、主にどのような仕事をしているのですか。

(学芸員) はい。私たちは、美術作品を展示したり管理したりするほか、来館者に作品や作者などについての解説もしています。

(中学生) あなたは、どうして学芸員という仕事を選んだのですか。

(学芸員) 中学生の時に、ある美術館で見た絵が好きになり、将来は美術に関わる仕事につきたいと思うようになったことがきっかけです。その後、兄が私に、学芸員について書かれた本を貸してくれました。その本からも大きな影響を受けました。

(中学生) そうですか。私も絵が好きなので、こちらの美術館には何度も来ています。

(学芸員) それはありがたい。何度も来てくれているのですね。その中で一番印象に残った展覧会は何ですか。

(中学生) はい。江戸時代の浮世絵^{うきよえ}の展覧会です。たくさんの人のにぎわっていました。ところで、こちらの美術館を訪れる人たちは、一日にどのくらいいるのですか。

(学芸員) 日によって違いますが、平均すると、一日に約八十八名の方がいらっしゃいます。

(中学生) たくさんいらっしゃるのですね。その人たちが作品に親しむことができるように、どのようなことを行っているのですか。

(学芸員) そうですね。まず、作品の展示方法を工夫しています。また、作品を見ながら解説が聞ける音声ガイドを貸し出すなど、作品の紹介方法を工夫しています。

(中学生) そういった取り組みによって、多くの人たちが、より作品に親しめるようにしているのですね。今日はどうもありがとうございました。

(1) (A) の質問メモのあく力のうち、この中学生が (B) のインタビューの場面で質問していないものを、二つ選びなさい。

(2) (B) のインタビューの場面の——線「兄が私に……貸してくれました。」を、文の内容を変えないように、「私は」で始まる一文を書きかえなさい。

(3) 次は、(B)のインタビュ어의場面の□□で囲んだ部分の内容を、クラスで発表するために作った原稿です。□□に当てはまる表現を、十五字以内で書きなさい。

私が今回訪れた美術館では、来館者が作品に親しむことが出来るように、□□しています。

国・14・公・北海道・一般03裁量02・問・03

3 【一般03/裁量02】 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

種子は、いったん発芽をはじめれば、あと戻りはできない。また、種子が発芽して、芽生えに成長すれば、生涯、移動することはない。もしたら、どんな場所で発芽をはじめるかが、その芽生えの生涯の運命を決めてしまう。だから、種子は、生きていける場所を慎重に見きわめて、発芽しなければならぬ。

種子たちは、どのように、発芽の「時」と「場所」を知るのだろうか。多くの栽培植物の種子は、発芽の三条件である適切な温度、水、空気(酸素)があれば、発芽する。しかし、自然の中を自分の力で生きる植物の種子は、そんなに簡単に発芽しない。それぞれの植物種の種子は、発芽のタイミングを知る方策を身につけている。乾燥した地域に生きる植物の種子は、適切な温度と水と空気があつて

も、発芽してはならない。発芽する際、もっとも気をつけねばならないのは、発芽後にも使える水があるかどうかである。もし、発芽後に水が不足すれば、芽生えは、たちまち枯死してしまう。それゆえ、種子たちは、発芽するときに必要な水だけでなく、発芽した後に根を張りめぐらすのに使える水が十分あるかを、発芽の際に見きわめなければならない。種子たちは、どのようにして、「発芽したあと水がある」ことを知るのだろうか。「種子たちが発芽するとき、そんなことまで考えていないだろう」と思われるかも知れない。「種子がほんとうに考えているかどうか」は別にして、²「発芽したあと水がある」ことを、種子たちが知るためのしくみは存在する。

乾燥地帯に生きるいくつかの植物は、種皮の中に、発芽を阻害する物質を含んでいる。これらの物質は、水に溶ける性質を持っている。だから、多量の雨が降って、種子が水につかれば、阻害物質は水に溶けて流れる。それほど多量の水がまわりにあるときに限り、からだから阻害物質がなくなり、この種子は、発芽する。発芽を阻害する物質が発芽のタイミングをはかる役目をする、わかりやすいしくみである。

また、種皮が堅かったり厚かったりして、発芽に必要な空気(酸素)や水が種皮を透過しないために、発芽しない種子がある。酸素を透過しないオナモミの種子や、水を透過しないクローバーの種子が、その例である。

こんな種子は、堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらか

くなると、発芽する。もし微生物が堅くて厚い種皮を分解するならば、微生物がまわりに多くいることになる。微生物が多くいるのは、水分が十分にあり、肥沃な土壌であることを意味する。だから、種子にとって、発芽後の成長に都合がいい。種子が堅い種皮を持つことは、適切な場所で発芽する一つのしくみである。

堅い種皮を持つ種子は、土壌中の微生物などによって種皮が分解されないと、発芽しない。それゆえ、同じ年に結実した種子でも、散布された環境により、発芽する時期は大きく異なる。

³ 同じ年に、同じ株、同じ花にできた種子であっても、発芽する時期が異なるというのは、種族の存続に有利に働く。散布された環境によって発芽する時期が違えば、発芽は、何か月、何か年にもわたって、ぼつぼつおこる。

自然の中では、ひどい乾燥や低温などのために、発芽した植物がすべて枯死することもあるだろう。そんなとき、まだ発芽していない種子があれば、その植物の種族を存続させることができる。長い間、存続してきた植物種が身につけている大切な性質だろう。

(田中修「ふしぎの植物学」による)

(注) 芽生え——生えたばかりの芽。

オナモミ——キク科の一年草。

問1 ——線「もし」は、どの文節を修飾していますか、ア〜エから一つ選びなさい。

ア 堅くて イ 分解するなら ウ まわりに エ いる

問2 ——線1「種子は、生きて……しなければならぬ」とありますが、乾燥した地域に生きる植物の種子がこのようにしなければならぬ理由を、次のようにまとめるとき、に当てはまる最も適切な表現を、文中から五字以上、十字以内で書き抜きなさい。

移動できない植物が乾燥した地域で枯死しないために、の存在を見きわめる必要があるから。

問3 ——線2「発芽したあとも水がある」ことを、種子たちが知るためのしくみ」とありますが、このしくみでは、どのようなときに種子は発芽すると筆者は述べていますか、二つ書きなさい。ただし、いずれも「種皮」という語を使い、三十字程度で書くこと。

問4 ——線3「同じ年に……有利に働く」とありますが、発芽する時期が異なると、どうして種族の存続に有利になるのですか、五十字程度で書きなさい。

4 【裁量03】 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、東京で女学校に通っている「私」が、旅行先の北海道で、
 鯨の大群が産卵のため沿岸部に押し寄せる「群来」の際に行われる
 漁の様子を、初めて見たときの話です。

突然、番屋のなか騒がしくなつたかと思うと、外で「群来だあ。群来だあ」と叫ぶ声がしました。それは騒然とした気配とでもいうほかありません。外はまつ暗な闇夜でした。波の音だけがごうごう夜の底で鳴りつづけておりました。ただ浜に集まつた人々が口々に何か叫び、それが単調に繰り返す律動的な波の轟きを、冷静な、物に動じぬ、不変の真理のように思わせるほど、異様な、物狂わしい騒ぎへと高まつてゆくのがわかりました。

もちろん何も知らない私は、雪江が沖の赤い篝火を指して、あれが起こし船、あれが舢船、と説明するのを聞いて、このまつ暗な波の下で、無数の魚群がひしめいているのだと想像するほかありませんでした。しかしそう思うだけで、何か激しい力のぶつかり合いを見るような、わくわくした興奮が身体のなかに湧きあがってくるのでした。

翌朝、私たちが外に出てみますと、あたりは潮の香りとは別の、生臭い、ぬるぬるした、鉄錆に似たにおいに満たされていました。

「鯨のおいだわ。鯨のおいだわ」雪江はそう叫んで駆け出しました。

浜は一夜のうちに大勢の男女がめまぐるしく動く一大漁場が変わって
 いました。舢船では男たちが最後の力をふりしぼって「そーらん、そーらん」をうたいながら、大たもで鯨を汲み出していました。風は夜のうちより弱くなつていましたが、波は相変わらず高く、波がしらが白く砕けながら、幾十幾百となく陸へ目がけて押し寄せていました。

雲は低く層になつて垂れ、鉛色の層雲の切れ目に一か所明るんで、銀白色に寒々と光つているところがありました。その極光のような光が蒼黒い、金属質の肌をした波に反射して、早暁のしんびな気配を湛えていました。

舢船から鯨を汲み出した汲み船は、船底に鯨を積み込んで、浜辺に近づきます。浜辺では背負木箱を背負った女たちが汲み船の着くのを待つて、つぎつぎと板を渡つて船に乗り込んでゆくのでした。

私はここでもこの単調な鯨運びの労働のなかに、東京では味わうことのできなかつた、力に満ちた、疲れを知らぬ、激しく噴き出してくる律動感を感じたのです。

女たちは船に乗り、背負木箱に鯨を一杯にすると、それを波打際に石垣で一段高く築いた魚置場に運びます。すでに夜のうちに運んだ鯨の大群が三尺か四尺ほどの高さに積み上げられ、なお女たちの列はぐるぐる回る人形の群れのように汲み船と魚置場のあいだを動きつづけているのでした。

女たちは休みをとることがありません。食事は、賄い係の差し出すに

ぎり飯を列になって歩きながら頬ばります。彼女たちが休むのは、背負木箱に鯨をすくい入れるあいだ、船底板に腰をおろすときだけなのでした。それにしても何というおびただしい魚たちの群れなのでしょう。私は魚置場に積み上げられた鯨を見たとき、一瞬、目がくらくらすような気持ちになりました。こんな数の魚を私は見たこともなければ、想像したこともありません。しかもこれはたった一晚の網にかかった鯨にすぎないのです。このあと、幾日も幾日もこうやって魚の群れは岸をめがけてやってくるのです。

常右衛門の話では、沖の建網たてあみのなかに一晚に三十石ぐらいの鯨が入るといふことでした。およそ二十トンほどの魚群といふことになるのでしょうか。これはしかしたった一つの網にかかった鯨の群れにすぎないのです。私が望楼に登って忍路おしよろの海面を見渡しただけで、この岬と岬のあいだの弧状の海岸に、十幾つかの、漁場を示す紋章入りの旗が数えられましたから、その全部に鯨が群来しないと、その膨大な数は想像をせつしみます。しかもこのすさまじい数の鯨群が一尾あたり七、八万粒の卵を産みつけるのですから、自然のもつ果てしない生命の力というもの、何に喩たとえたらよいのかわかりません。

それは不気味な思いすら感じさせる大自然の無尽蔵な巨大さを、私の眼の前に繰りひろ拡げてみせるのでした。自然の力は、あとからあとから疲れることなく、たえず何物かを産みだしているのです。これでいいという限界を、それは知りませんでした。暗い空の下で蒼黒い波を身もだ

えるように揺らせて、岸をめがけて突進してくる、牡牛おうちのような獐猛どうもうな海そのものが、すでに自然に、この無限の、膨大なエネルギーを語りつけていました。いつかチフスが癒なごって落合おちあひの家に戻ってから間もなく、川の水の豊かで尽きることのない動きに、魅了めいりょうされたことがありました。が、海の無限感、壮大感というものは、川の果てしない動きとは、また別の、一種のめくるめく併呑感へいどんをもって私たちを包んでくるのです。どんなに私が想像力を使ってこの宇宙を越えようと思っても、雲の垂れ込める灰色の海を見ていると、いつか海水の膨大な量と、悠久感を湛えた無言の波のうねりと、繰り返し崩れ落ちる波打際の轟とどろきの前で、いかに自分がちっぽけな存在であるかをいやというほど知らされるのでした。

この荒れ騒ぐ海のなかで、魚たちのおびただしい産卵が行われ、二週間もしないで無数の稚魚が生まれ、数か月後には北の海を目ざして小さな魚の形をとった生命の群れは去ってゆくのです。それからまた何年かたつて、自分が生まれたその同じ海岸へ卵を産みに戻ってくるということ——それは季節の循環によって花が咲き、実が結び、種となって地にかえるに似た、⁴果てしなく大きな自然のめぐりのように感じられてくるのでした。

(辻邦生「樹の声 海の声」による)

(注) 番屋——漁師が主に漁の時期に寝泊まりする家屋。

雪江——「私」の友人。 常右衛門——雪江の父。

忍路——北海道の地名。 落合——東京の地名。

併呑感——何もかも飲み込むような感じ。

問1 ——線1、2を漢字で書きなさい。また、——線3の読みを書きなさい。

問2 ——線1「わくわくした興奮……湧きあがってくる」とありますが、「私」がこのように感じた理由を、三十字程度で書きなさい。

問3 ——線2「力に満ちた……律動感」とありますが、「私」はこのとき、女たちが繰り返し行っている、どのような作業に律動感を感じたのですか、五十字程度で具体的に書きなさい。

問4 ——線3「いかに自分が……知らされる」とありますが、「私」がこのように思った理由として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 一人で旅をしていることに孤独感を感じており、鯨の稚魚が生まれて間もなく、群れをなして北の海へ泳ぎ出していくと知って、一体感のある鯨たちと自分を対比したから。

イ 海岸をめがけてやってくるおびただしい数の鯨や、眼の前に広がる膨大な量の海水と波のうねりや轟きに、無尽蔵の巨大な力を感じとり、自然の壮大さと自分を対比したから。

ウ 人々が力を出し合って鯨漁に取り組む様子を見て、都会育ちの自分も、彼らのように活気あふれる生活を送れるだろうかと自問し、人間のたくましさと自分を対比したから。

エ 眼の前に押し寄せてくる波のうねりや轟きは、以前眺めた尽きることのない川の流れと同じく、穏やかな律動感に満ちていることに気づき、悠久の自然と自分を対比したから。

問5 ——線4「果てしなく大きな自然のめぐり」とありますが、「私」は、鯨のどのような営みを、このように感じたのですか、八十五字程度で書きなさい。

5 【一般04／裁量04】 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

A、Bはいずれも、初心者が和歌を詠む際の心得について、筆者が自分の考えを述べた文章です。

A 得たる者の歌は、何事をいひ出でたるも、一ふしの興ありておもしろきなり。初心の者これを見て、心にうらやましく思ひて、詠み似せんとすれば、無心所着の何とも無くほれたることを詠み出だすなり。これは何をあそばし候ぞと人が尋ねれば、我もしらずといひて、たはこと詠むなり。よくよく慎しむべき事なり。

B 初心の程は、無尽に稽古すべきなり。一夜百首、一日千首などのはや歌をも詠みたり。又五首、二首を、五日、六日に案ずる事もあるべきなり。かやうにかけ足を出でたる歌をも詠み、手綱をひかふる歌をも詠みつれば、延促自在になりて、上手にもなるべきなり。

(正徹「正徹物語」による)

(注) 得たる者——和歌を詠むことが上手な人。

一ふしの興ありて——どこか優れたところがあつて。

無心所着——意味が通じないこと。

ほれたること——ぼんやりしたこと。

五首、二首——ここでは、「数首の和歌」のこと。

延促自在になりて——自分の思うままに歌が詠めるようになって。

問1 ……線ア～エのうち、現代仮名遣いで書き表しても、仮名遣いが変わらないものを、一つ選びなさい。

問2 Aの文章には、「初心の者」の発言があります。その部分を書き抜きなさい。

問3 AとBの文章のどちらの内容にも合わないものを、ア～エから一つ選びなさい。

ア 初心者のうちは、上手に和歌が詠めるようになるために、ひたすら和歌を詠む練習をすることが大切である。

イ 初心者が、和歌の上手な人をまねて詠んでも、意味の通じない和歌になってしまうので、気をつけるべきである。

ウ 初心者は、和歌を早くたくさん詠んだり、じっくり考えて詠んだりすることで、自在に和歌が詠めるようになる。

エ 初心者が、趣のある和歌を詠めるようになるためには、和歌の上手な人にあこがれて、その和歌をまねる必要がある。

H 26 北海道 公立 国語 解答

1 【一般01】 国・14・公・北海道・一般01・K・01

| | | | | |
|----|-----------|----------|-----|---|
| 問1 | (1) () | こっえん | () | 1 |
| | (2) () | とうろん | () | 1 |
| | (3) () | とど | () | 1 |
| | (4) () | とな | () | 1 |
| 問2 | (1) () | 楽器 | () | 1 |
| | (2) () | 許可 | () | 1 |
| | (3) () | 細 | () | 1 |
| | (4) () | 育 | () | 1 |
| 問3 | () | 買わ | () | 2 |
| 問4 | (1) () | 才 | () | 3 |
| | (2) かな | | | 3 |
| 問5 | () | (例) いただく | () | 2 |
| 問6 | (1) () | (例) 帰ろう | | 3 |
| | (2) つるに足が | | | 3 |

〈備考〉問5 「いただく」などの謙譲語が、適切に用いられ表現されているものを正答とする。

2 【一般02/裁量01】 国・14・公・北海道・一般02裁量01・K・02

| | | | | |
|----|--------------------------------------|-------|-----|---|
| 問1 | (1) () | 刀(両)断 | () | 1 |
| | (2) (心)機(二)転 | | | 1 |
| 問2 | (1) 誤って使われている漢字 | (働) | () | 1 |
| | 正しい漢字 | (導) | () | 1 |
| | (2) 誤って使われている漢字 | (式) | () | 1 |
| | 正しい漢字 | (識) | () | 1 |
| 問3 | (1) (ア) | (カ) | () | 3 |
| | (2) (例) (私は) 兄から、学芸員について書かれた本を借りました。 | | | 4 |
| | (3) (例) 作品の展示や紹介の方法を工夫 | | | 4 |

〈備考〉問3(2)

- 1 主語と述語が適切に対応し、文意の通じているものを正答とする。
- 2 表現の稚拙なもの、不十分なもの、表記上の欠陥があるものについては、各一点を減じる。
- 3 減点の結果がマイナス点にならないようにする。

1 作品の展示方法や紹介方法を工夫することが適切に表現されているものを正答とする。

2 字数については、設問の指示に従って答えるものとする。

3 その他については、問3(2)の採点基準2、3に準じる。

3 【一般03／裁量02】 国・14・公・北海道・一般03裁量02・K-03

配点

問1 (イ)

2

問2 発芽後にも使える水

3

問3 ①(例)多量の水によって種皮の中の発芽を阻害する物質がなくなったとき。

②(例)堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらかくなったとき。

3

②(例)堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらかくなったとき。

3

問4 (例)ひどい乾燥や低温などのために、発芽した植物がすべて枯死しても、まだ発芽していない種子が残るから。

4

(備考) 問3

1 配点は各三点とし、順不同とする。

2 ①「多量の水によって種皮の中の発芽を阻害する物質がなくなった」と、②「堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらかくなった」ことが、それぞれ適切に表現されているものを正答とする。

3 字数については、解答欄の枠内で答えるものとし、それを超えるもの、または、極端に少ないものについては、各一点を減じる。

4 その他については、**2**の問3(2)の採点基準2、3に準じる。

問4

1 「乾燥や低温などのために、発芽した植物がすべて枯死しても、まだ発芽していない種子が残る」ことが適切に表現されているものを正答とする。

2 その他については、問3の採点基準3並びに**2**の問3(2)の採点基準2、3に準じる。

4 【裁量03】 国・14・公・北海道・裁量03・K-04

配点

問1 1 (神秘)

1

2 (絶) し

1

3 (みりょう)

1

問2 (例)まっ暗な波の下に無数の魚群がひしめいていることを想像したから。

3

問3 (例)つぎつぎと板を渡って汲み船に乗り込み、背負木箱に練を一杯にして、波打際に築いた魚置場に運ぶ作業。

6

問4 (イ)

3

問5 (例)おびただしい産卵のあと、二週間もしないで無数の稚魚が生まれ、数か月後には北の海を目ざして去ってゆくが、何年かたって、自分が生まれた同じ海岸へ卵を産みに戻ってくるという営み。

6

〈備考〉問2

1 まっ暗な波の下に無数の魚群がひしめいていることを想像したことが適切に表現されているものを正答とする。

2 その他については、**3**の問3の採点基準3並びに**2**の問3(2)の採点基準2、3に準じる。

問3

1 ①「つぎつぎと板を渡って汲み船に乗り込む」ことと、②「背負木箱に鰈を一杯にして魚置場に運ぶ」ことの二点が適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は三点を減じる。

2 その他については、**3**の問3の採点基準3並びに**2**の問3(2)の採点基準2、3に準じる。

問5

1 産卵のあと、そこで生まれた鰈の稚魚が、北の海を目ざして去り、また同じ場所へ産卵のために戻ってくるということが適切に表現されているものを正答とする。

2 その他については、**3**の問3採点基準3並びに**2**の問3(2)の採点基準2、3に準じる。

5 【一般04／裁量04】 国・14・公・北海道・一般04裁量04-K-05 配点

問1 (エ) 3

問2 (我もしらさず) 3

問3 (エ) 3

H 26 北海道 公立 国語 解説

国・14・公・北海道・一般01-KS-01

1 【一般01】 問1 (1)「公」の訓読みは「おおやけ」、「園」の訓読みは「その」。(2)「討」の訓読みは「う(つ)」。(3)「とど(く)」という訓読みもある。(4)「唱」の音読みは「ショウ」で、「暗唱」などの熟語がある。

問2 (1)「器」を「機」と混同しないように注意。(2)「許」の訓読みは「ゆる(す)」。(3)「細」には、ほかに「ほそ(い)」という訓読みもある。(4)「育」の音読みは「イク」で、「教育」などの熟語がある。

問3 「活用」とは、あとに続く言葉によって言葉の形が変化すること。

五段活用の動詞「買う」は、「ない」に続くときは「買わ」と活用する。

問4 (1)俳句の定型は「五・七・五」。俳句の中によりこまれる季節を表す言葉を「季語」という。(2)「や」「かな」「けり」などの感動や余韻を表す語が俳句で用いられた場合、その語を「切れ字」と呼ぶ。この句では最後の「かな」が切れ字。なお、切れ字が句の途中にあると、その直後で句切れる。

問5 「もらう」の謙譲語は、「いただく」。謙譲語とは、へりくだることによって、相手を高めるはたらきを持つ言葉。

問6 (1)「あだし、帰る」という麻里子の言葉に着目する。(2)明るく光るやぶの向こうを早く確かめたいと思う気持ちがあったから、遠浅は「つるに足がひっかかってころびそうになった」にもかかわらず、「いっしょに走りぬけた」のである。

国・14・公・北海道・一般02裁量01-KS-02

2 【一般02/裁量01】 問1 (1)「一刀両断」の意味は、「物事を思い切

ってきっぱり決断すること」。(2)「心機一転」の意味は、「あることをきつかけに気持ちや気分を入れ替えること」。「機」を「気」と書かないように注意する。

問2 (1)「誘導」と書く。「人や物がある地点へ誘い、導くこと」という意味。(2)「標識」と書く。「識」という字には、「知ること。見分けること。しるし」といった意味がある。

問3 (1)「中学生」の発言内容を確かめると、ア「最も印象的だった展覧会」と、カ「学芸員を目指す人へのアドバイス」については、学芸員に質問をしていないことがわかる。(2)「兄が私に……貸してくれました。」を「私は」で始まるように書き直すと、「私は兄から……借りました。」となる。「借りました」は「貸してもらいました」でもよい。(3)「学芸員」は、「作品の展示方法」と「作品の紹介方法」の二つについてふれているので、この二つをどちらも盛り込んだ内容とする。

国・14・公・北海道・一般03裁量02-KS-03

3 【一般03/裁量02】 問1 「もし」は、「なら」「だったら」などの仮定の表現と呼応する陳述の副詞。ここでは、「もし——分解するなら」で呼応している。

問2 「乾燥した地域に生きる植物の種子」について説明している部分の内容をとらえる。「発芽する際、もっとも気をつけねばならないのは、発芽後にも使える水があるかどうかである」とあるのに着目する。この中の「発芽後にも使える水」を当てはめると文意が通る。

問3 「種皮の中に、発芽を阻害する物質を含んでいる」植物の場合と、「堅くて厚い種皮」を持つ植物の場合との二つに分けて答える。「どのようなとき」と問われているので、「……とき。」の形にまとめること。

問4 発芽する時期が異なると、どうして種族の存続に有利になるのか、その理由については、最後の段落で説明されている。発芽した植物がすべて枯死しても、まだ発芽していない種子があれば、その種子があとから発芽することで種族の存続が可能になるのである。

国・14・公・北海道・裁量03-KS-04

4 【裁量03】 問1 1「神秘」は、「人間の一般的な知恵や認識では計り知れないこと」という意味。2「想像を絶する」は、「あまりにもはな

はだしくて想像できない」という意味。3 「魅了」は、「人の心を引きつけ、うっとりさせること」という意味。

問2 直前の一文の中の「この真つ暗な波の下で……想像する」が理由にあたる。「……から。」の形でまとめる。

問3 問題に「女たちが繰り返し行っている、どのような作業に」とあるので、「女たち」の作業を描いた部分をピックアップする。これより前に「背負木箱を背負った女たちが……乗り込んでゆく」とあり、あとには「女たちは船に乗り……魚置場に運びます」とある。この二つの部分を組み合わせて答える。

問4 同じ段落の初めにある「大自然の無尽蔵な巨大さ」に着目する。これにイの「無尽蔵の巨大な力」「自然の壮大さ」が合致する。

問5 「果てしなく大きな自然のめぐり」は、その前にある「それは季節の循環によって……」の「それ」を受けている。この「それ」は、さらに前の「この荒れ騒ぐ海のなかで、魚たちの……戻ってくるということ」を指しているのです、この部分の内容をまとめる。

国・4・公・北海道・一般04裁量04・KS-05

5 【一般04/裁量04】 問1 「ひかふる」を現代仮名遣いに直すと「ひ

かうる」となって、「ひ」は変わらない。歴史的仮名遣いの「はひふへほ」は、現代仮名遣いでは「わいうえお」に変わるのが原則だが、「語の最初にある場合」と助詞の「は」「へ」は変わらないので注意が必要。

問2 「これは何をあそぼし候ぞ」と「人」が尋ねたのに対して、「初心の者」が「我もしらず」と答えたのである。人が話した会話部分は、「と」の直前で終わることが多い。

問3 初心者に対する助言として、Aの文章では「むやみに和歌の上手な人のまねをするのはつつしむべきだ」と述べ、Bの文章では「ひたすら練習をするべきだ」「早くたくさん詠んだり、じっくり考えて詠んだりするべきだ」と述べている。「和歌の上手な人」に「あこがれて、その和歌をまねる必要がある」とは言っていないので、エを選ぶ。